

石高神社

第四十二号

発行日 令和五年十二月一日
発行者 石高神社 宮司 高原 章兆
発行所 岡山市中区円山八五三
電話 〇八六一二七七一九〇〇三

屋根葺き替え

平素は石高神社にご理解とご協力を賜りましてありがとうございます。新型コロナウイルスのパンデミックもひと段落して以前のような明るい日常が戻ってまいりました。コロナウイルスは、弱毒化して人間と共存の道へと舵を切ったのでしょうか。そうならば人類も舵を切って、地球という生態系の中で人間どうし平和に共存したいものです。 * * * * *

神社にとりましては、縁あってこの地域に暮らしているすべての人が「氏子さん」です。神様はその地域を見守っておられます。そして、正月や祭には、多くの氏子さんたちが姿を見せて祈りを捧げるのを喜ばれると考えられています。

まもなく迎える明年が皆様にとりまして幸多い年となりますように祈り申し上げます。



令和5年 初詣での様子

令和元年から拝殿・釣殿・幣殿の屋根葺き替えの御寄進をお願いしてまいりました。現在のところ約八五〇万円のご浄財を賜っています。見積額が税込み約一、一〇〇万円ですので、約二五〇万円不足しています。しかしながら、拝殿の瓦が垂れてきている状態をこれ以上長い間放置しておくことは大変危険です。コロナも一段落しましたので、来年には着工するように秋の総代会で決まりました。つきましては、出費多端な折柄、まことに恐縮ではございますが、今一度御寄進をお願い申し上げます。改めて申すまでも無く御寄進は任意ですが、ご協力を頂ければ大変有難く存じます。



垂れてきている瓦

昔の宮山

眺望よし、松がいっぱい

明治二十七年記載の当社の記録に次のような記述があります。

「宮山は単一なる小丘にして高さ七丈余りありて凡そ百五十年以上の老松此処彼処に散在老幹枝垂せり 或いは七八歩にして松樹榭爵蜜として青色を呈せり 周囲殆ど円形をなしたる円山なり 風景雅絶南に児島湾を眺望し自ら無塵の潔地にして実に国郡の美観勝地と称するに足れり」

宮司が子供の頃にも松が数多く生えており、特に東南や南側には若い松が密集していました。松茸を採取したこともあります。東側には白っぽい土がむき出しの斜面があり、子供たちが束ねた藁に乗って滑って遊んでいました。昭和三十年代までは、「まつごかき」をしたり、木を切って燃料を得ていました。昭和四十年代には燃料を山に頼らなくなったことと、松くい虫によって松が次々と枯れていき、広葉樹ばかりになりました。数年前に木を切ったので、南から東にかけての見晴らしは昔同様に良くなりました。今年（令和5年）の初日の出もきれいに見えました。



令和5年初日の出

恒例行事

正月一日は、初日の出を拝んだあと、歳旦祭の祝詞を奏上します。その後、夕方五時頃まで新年祈禱を承っています。一昨年から夜中の祈禱はしていません。

どんど祭は、一月十

四日以降の最初の土曜または日曜に実施しています。毎年十四日から十九日の間になります。

厄祓いは、数え年で歳をひとつとった正月や旧正月のころお参りします。

厄年の年齢は、人の一生の中でも、体力や社会的に転機を迎えやすい時期と考えられています。厄祓いや健康診断を考えられてはいかがでしょうか。二月一日または節分の頃までにお参りください。

令和5年のどんど
 一月十四日(日)
 十時開始
 針金とプラスチック類の飾りは、はずしてください。

令和6年の厄年祝年

厄年祝年	生まれた年
女19歳	平成18年
男25歳	平成12年
女33歳	平成4年
男42歳	昭和58年
還暦祝	昭和39年
古希祝	昭和30年
喜寿祝	昭和23年
傘寿祝	昭和20年
米寿祝	昭和12年
卒寿祝	昭和10年
白寿祝	大正15年
百寿祝	大正14年

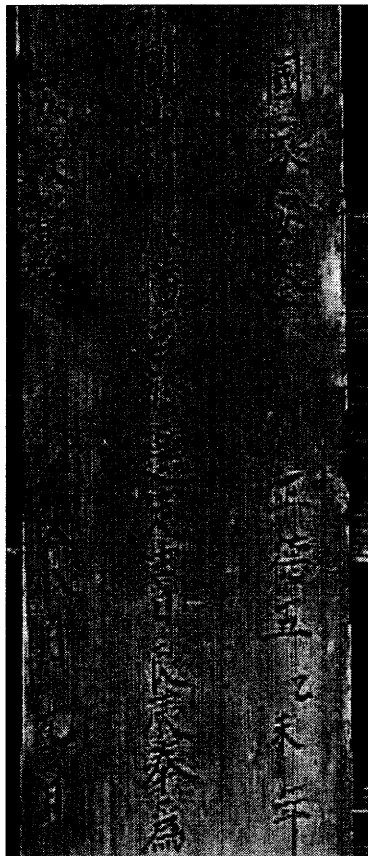
年齢は数え年

年祝いは、神様に長寿の報告と感謝をして家族とお祝いをする人生のお祭りのひとつです。

輪くぐり祭は、毎年七月三十一日の晩です。秋祭の氏参りは、毎年十月三日の晩です。この日だけ夜店が出ます。

現存する棟札

当社には、正徳五年（一七一五）からの棟札が保存されています。それらの棟札から、正徳五年に社殿が建てられ、天保十二年（一八四一）に建て替えられたことがわかります。その他、文化三年（一八〇六）、文政四年（一八二二）、明治二年、明治二十四年、昭和七年の本殿葺替、昭和四十七年の本殿葺替、平成二年の幣殿葺替棟札があります。昭和四十七年には桧皮葺を銅板葺きに変え、平成二年の葺き替えは古瓦を再使用しています。



Q&A ⑨

神社ではなぜ
数え年を使うの？

神社では、厄年の年齢などを数え年で表します。現代では、誕生日に一歳年齢を加える満年齢を用いていますが、わが国には古来、誕生日に関係なく正月に一才年齢を加える数え年の風習がありました。これは、正月が年神さまを迎えてお祝いする大切な時季です。で、その時に併せて一歳ずつ年をとる数え年がふさわしいと考えられてきたからです。また、零の概念が無く、一から始まったので生まれた日から一歳で、新年を迎えると二歳になりました。神社では、日本の伝統的な考え方を継承していくことから、数え年を尊重しているのです。

建物の階数の数え方もヨーロッパでは、地上階は零階になりますが、日本では一階という数え方になっています。共通の考え方が見えて興味深く感じます。



イノシシ ついに宮山に出没

石高神社のある宮山にも十月中旬になってイノシシが掘り返した跡が見られるようになりました。写真は、伐採した枯れ木をほじくったものです。同じ頃の昼間には、キツネのような太い尾の動物も官司が目撃しました。三年前には、タヌキも見ました。アナグマの掘った小さい穴もよく見受けられます。



石高神社への道案内

当社の南側と西側には、石段の参道があります。自動車でお参りの折には、宮山の東側を山に沿って進むと北側から山に上がる道があります。少し上がった左側の空き地または本殿の裏に駐車できます。正月の昼間には混雑が予想されます。帰る方を優先に譲り合いをお願い致します。また、宮山の東北のカーブは見通しが悪いのでお気をつけください。

ホームページ <http://ishitakajinja.web.fc2.com/>

